

92

特240

86

天下同憂の士に訴ふ

附 國體明徴
數論派開教要説

國體明徴
宗教の眞髓普及社



始



天下同憂の士に訴ふ

國體 明徴 宗教の眞髓普及社

曩に拙著『國體明徴』宗教の眞髓 物心同体一即多説 論派を起して最も直截簡明に、絶對を論じ相對に合し、理想を實現して人生生活を合理化し一元化しやうとするものである。私の佛教教論 叔即多説によれば、萬有は一元にして差別そのまゝ、平等であり、平等そのまゝ、差別であつて各自その使命遂行が生活を完全にするとの結論に到達したのであるから、その原理は延びて地上絶對神聖説となり、我が

國體明徴となり人心の更始一新となるのであるから、之が普及徹底によつて社會の明朗化を期せんとする次第である。
願くは有縁尊皇愛國の仁人内外非常時局に関心を持たるゝ善男善女諸賢翁つてこの事に贊助を賜はらんことを。

綱領

二

皇國文化事業協會を起して理想を實現する機關となし、左記の事業を開設する。

- 一 我が國林の地上絶對を説きて國民思想の健全に勤め、國礎を益々鞏固にして大日本精神を中外に宣揚する。
- 一 天皇神聖を説きて國民精神の帰趨を明かにし、上下一致生活の矛盾を少なくして人心を明朗化する。
- 一 我が皇國の家庭本位一大家族主義を強調して「八紘一宇」の皇護を國民一般に理解せしめ、上下相携へて世界の平和人類の福祉に邁進する。
- 一 一切平等を論じて各自の使命を遂行せしめ、人心を大乘化する。
- 一 物心同体説を宣布して、物質本位の科学萬能主義利己主義から目醒めしめ、道徳と経済との調和を實現する。
- 一 文武両道を隆盛にし佛教の修行鍛鍊と相俟つて國民の心身健全を圖る。
- 一 國民保健並に慰安の施設をなし人生の悲惨事を除く。

- 一 皇祖天照皇大神歷代天皇並に神人格者祖先等の靈位を奉祭し、更に聖不勤尊を安置して、尊像經文を透し教諭を透して神人格並に法界の威徳を禮讃体得し、己身を清め公事其他一切を清め、祭政一致を實現して天壤無窮なる國本安定萬民和樂の實踐的修行道場を建設する。
- 一 宣傳部を設け講演並に書籍を發行して右の趣旨綱領徹底化を期する。

三

数論派開放要説

数論の悟道

曩に拙著國体明徴宗放の真髓物心同体一即多説に誌せる佛敎数論一即多説とは「は萬物の始まりと申すやうに、一から無限数までの多い数も一が集まつて成立したものの、即ち「一が一切一切が一」であるから一切平等だと云ふことである。御話の上では容易く分りまじに思はるゝが決してそうやない、恰もそれは文字は読めても意味は分らないと同様である、私はこの数論を以て一切を覚り、皆様に覺つて戴きたいのであるから、繰り反して読んで頂き書き足りない所は聞いて戴きたいと思ふのである。因て私は茲に、

相對数母

数の成立から説いて本論の責任を承したと思ふ。抑も数字は如何程あれば無限数が自由に作れるかと云ふに、一から十まであればよいので、餘は同じ数字を繰り反せば平等差別相對無限数が出来るのである。私はこれを相對数母と呼んでゐる、併しながら数は無限に作られても、それだけでは縱横自

在に運算は出来ない、なぜならば数は相對数のみが数でなく絶対数もなければならぬからである。

絶対数母

然らば絶対数母とは如何なる数かと申すに、十は唯だ一つの数字であるから單十である、二十三……乃至十十即ち單十に十割したる数が全十であつて百に該當し、十を十で約すれば一である。この全十は一ともなり百ともなるから一即多である、一即多であるから自にして他である、自にして他であるから自他平等一体にして無限数である、自他平等無限であるから有限にして無限である、有限にして無限であるから相對即絶対である、故に私は之を絶対数母と呼んでゐる、即ち全十は無限数成立の單位にして全体である。

運用自在

そこで相對数母によつて平等差別相對無限数が出来、絶対数母によりて絶対無限の靈数が加はつて運用自在を得るのである、例へば一一……も之を繰り反せば平等無限数となり、一二三……も之を繰り反せば差別無限数とな

るが、これが運用を自在にするには、加減数理は成り立つても割除数理が成り立たないから、絶対数母全十が加はらるれば有機的働きを起さないのであつて、恰もそれは物と心との關係のやうに、相對数が即ち絶対数となり、絶対数が即ち相對数とならなければならぬからである。

そこで一より十までは相對数母なるに、全十は絶対数母であるから、差別即平等、平等即差別の理を含み、絶対即相對の数理が得らるゝので始めて数理の運用が自在に出来ると申す次第である、此の数理は平等数も差別数も全十が極数にして絶対と相對との縮数なるが故に、有限にして無限、自にして他即ち全十は數、物、心三者成立の要素であることを御承知ありたい。

天体の数理

然らばこの数理によつて働いてゐるものは何であるか、是れ即ち天体であり、地体であり、天地間の萬物個々である、そこで私は萬物に天地あり天地に萬物あり、數、物、心三位一體なることを重ねて申上げ之を前提としてお話を進めることに致したいと思ふ。

萬物の数理

私は前に全十は十に十割して百となり十にて十を約すれば一となる數であるから一即多であり多即一であり、自他平等一體にして無限の絶対數母であると云つたが、この一は心にして物であるから萬物の始めにして終りの數字である、尚ほ絶対一は無始無終の天地に該當する數字であるが、萬物も亦天地と同じ内容によりて成立したるものなるに、天地のやうに無礙心でなく、無量体でなく、無量力でなく、無量壽でないのは全十的使命即ち自利利他の大功德を果さないからであつて、言ひ換へれば終始誠が一貫しないから絶対になり得ないのである。

十界數論

結論はこゝに到達したのであるが、佛敎の世界觀人生觀も亦是れと同様で一心に佛乃至……地獄までの十界あり、十界に各十界あつて佛も衆生も同法性であるけれども、佛の道を行はなければ佛にはなれないと言ふのである。純數論から見ると十界說から見ると同様の数理が顯はれてゐるのである。

天地恩教

天地恩、佛恩、君恩、父母恩、師恩、衆生恩皆等しく無限恩と云ふに盡きるのである、故に報恩の念は一時も忘れてはならない、御話の横道にそれたやうであるが、恩と云ふことは最も大切な事であるから、無限教理を論ずる中に付け加へた次第である。

地上絶対

然らば天体のみに絶対があり、神佛のみに神聖があるかと申すに決してやうでない、印度に釈迦様があり、支那に孔子様があり、我が日本國には皇祖天照皇大神御歴代天皇あり、歴史的惟神の國体あり、君は神君民は神子と云ふ地上絶対にして神聖なるものが我が國には嚴存してゐるのである。(この教理は後章にあり)

日本の絶対

この絶対日本を私の佛教教論は如何に解決するかと申せば、恰も全十が絶対無限の教母として約すれば、時間空間を超越して一となり多となり、天地

無限の体をなしてゐるやうに、我が國体は一君萬民萬世一系にして、全く時間空間を超越し天壤と窮りないから有限にして無限の地上絶対であり神聖であるとするのである。

かゝる事實は世界各國に比類がないのであるが、我が國にあるものが他國にないと云ふのは、如何なる教理によるかと云ふ疑念もあること、思はるゝから他國の教理も挙げて尙ほ少しく述べるであらふ。

共産國

例へば彼の共産國の共産主義、物質萬能主義は遂に富の平等を以て國民の生存権を有意義に確保するものとなしたのであるが、彼等は差別即平等の理を解せず、靈を忘れ永劫の生命を喪にし、地上絶対を没却して悉く事物を相對になし了り、事毎に自然でないから変革又変革底止する所がない、即ち自由を欲して却て束縛を受け、平等を欲して悪平等を得た訳であつて、之を私の教理に磨ふれば一一、平等無限であるから少しも差別的個性尊重がない。柯れ七國の憂き目を見ねばならぬと信ずる。

使命絶對にして「一即一切一切即一」即平等一子の神の子である。我が國民にしてこの自覺あれば人類の汲求は悉皆我が國体に凡ゆる理想を包含され、最も能く消化され同化され尽してゐる筈である。

尚又神性を有するは人間のみでなく萬物悉く同じであるから、その使命のまゝに貫き透せば一切の差別は消え天徳と平等一体であると申す次第であつて、所謂「草木國土悉皆成佛」の最も有難い國体である。

明治天皇の教育勅語に

「朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フレ」とあるは、各自その徳を天徳同一にして人生を有意義にせよとの御教と恐察する次第である（妙觀察智）

一切平等の数理

一切平等の理を私の数理で説くならば十分の十は一にして多の絶對對数である。恰も私共否萬物の固有する全十を宜しきに従つて完ふし、その徳が天徳と合至したる一である。即ち「一以て是を貫く」と古の聖人が仰せられた

やうに、一とは又誠心のことである。誠心を以て萬事を貫き遂げたる一生が時間空間を超越して全十を完ふし天の誠に通じたる絶對對数なのである。我が國体の精華とは人も家も國も誠心以て終始することとを申したのである。

この数理の實例は利息算を見れば明かである。茲に元利合計百十円になつたが、利子は年一割である、元金は幾何との算法を見よ、利子一割に一圓を加へ十分の一で百十円を割れば元金は百円であらふ、一圓は凡ゆる数に平等であるから全十的使命を全うすれば一切平等にして眞の幸福が得らるゝとの意味であるから使命以外に何物をも求めてはならぬ。誠以外に幸福は得られぬ事を覺るがよい。

彼の共產主義は平等即差別とならず、自由主義利己主義は差別即平等を缺き平等對差別の對立等々は悉く他國に行はれつゝあるものにして小我妄執主義である、彼等は決して眞の幸福であり得ない。

日本精神に目醒めよ、自由主義個人主義共產主義を排撃せよ、只管使命を遂行し遂行せしむることが一切平等の理想にして眞の幸福を招來する所以で

あるから量より質が大切であつて質即ち量となるのがこの絶対教理の證する所である。佛敎などで何人も佛の道を行ふ者は佛となり、地獄の道を行ふものは地獄に墮ちると申すと同様である。

例へ王候貴人となるとも本質の性はざるものは亡び、假令匹夫と雖もその性善なるものは天下を風靡し名を後世に傳ふるに至る。是れ即ち「一即一切一切即一」にして一即多の覺りである。(平等證書)

一念三千

このやうな譯で佛敎は前述の絶対教母即ち全十の教理を佛から乃至……地獄までの因縁説として一心に十界あり十界に各十界あるから無限の萬物に無限の差別相があると云ひ、一念三千と申して一念の十界に各十界あり十如あり三世間ありと云し、掛け合せて三千と云すのであるが、自他の本質が同じであるから天地萬物がその念々を透して自他一体である。因て一念を清めることが同時に自他を清め天地一切を淨め、而して其の功德を普ねく及ぼすことによつて自他共に佛になるとの教であるから、是れ又前述の教論と同じく

「一即一切一切即一」にして一即多の覺りである。

三位一体

以上の所説によれば一と言ふ数は萬能的であるが全く其の通りである。一は靈、心、壽命又は使命等々に見て載けばお分り易いのである。夫れは數、物、心三位一体であるからである。即ち始めなく終りなき不可思議なる無限絶対の天地は靈即ち純一無雜なる誠心を以て萬物を貫き支へ(平等)、萬物は複雑多岐なる心を各々因果的差別として形に現はし(差別)、重大なる使命を果して假の壽命を終り、絶対無限の神佛の壽命たる純一無雜の靈に歸るのである(平等)。故に人生は純真なる神佛の心を心としてその使命を完ふし得るや否やが一大問題であると思はねばならぬ。是れ實に天地萬物一律の真理に従つて課せられたるものであるから使命を完ふし能はざるものは流轉の世界に彷徨して神佛に歸ることは出来ないのである。故に心を磨いて物に迷ふことなく教理に違ふことなきやう三位一体を期せられたいものである。

地上絶対の國体事實

抑も我が大日本帝國は長くも神が天降り成されて國肇めせられ、御神勅によりて一君萬民、即ち君民同治の行はれ萬世一系を御繼承あらせ給ひ、御寶祚は天地と成つて無窮に交らせ給はず。天皇の御威徳は萬民を奄ひ骨髄に徹し、大御心は日本の御偉靈となりて國土萬民其他一切の使命を完からしめむとし、御姿は我が一大家族の君主となりて各家庭に和樂を投げ、以て忠臣孝子節婦義人義僕等々の神人格者を輩出せしめてゐる。是れ偏に我が天皇の御靈光御威徳が萬民の心裡に反映し、綜照總和せしめ給ふ證左でなくては可であらうか。是れ實に我が國体が天体そのまゝに之れを事実として天皇又之を體現あらせ給ひ、以て一即一切の理を貫くが故に、國民各々が天理のまゝに嬉しき使命の果し合ひにより「君に忠に、親に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し朋友相信じ、恭謙己を持し博愛衆に及ばし」天皇と一元の神子として皇道樂土と永遠に身命を安んじ得る全く地上絶對の國体であるからである。若し夫れ

人生の矛盾

他國のやうに自由主義個人主義共產主義的國民となつたならば如何であらふか、恰も前の相對教理が示すやうに個々別々の生活にして我が國の如く地上に絶對信仰の天皇なく、皇道樂土が得られなから、人智の發達するに従ひて生活の矛盾と人生の無常を感じ、遂には一切の希望を失ひて只管天國を祈らねばならぬであらふ。

神人合一

一即多説は更に又た精神界と物質界とが一切即一の原理によりて融合一致すべき時空超越を立證する次第であるから、是れ又た物心同体神人合一の莊嚴なる數理的顯現である。故に宗教も科学もその他一切事柄、この天の數理と我が國体とに合致せざれば邪教であり、非真理のものであらねばならぬ。

數論の成功

古來東西の哲學者が哲学に數理解釈を加へんとして失敗したる所であるが要はこの物心同体神人合一の絶對教理を得るにあつたと信ずる、然るに私の佛敎教論は彌密四敎の十界五輪説に基いて両者共に數理が判然加へられたる

次第であるから「教は理なり佛は理体をり」として原理的に宗教と科学即ち精神界と物質界とが遂に能く合流したので、両者の協力發達に伴ひて一切界が一層明朗化されねばならぬのである、即ち

我が世界無比と稱する惟神の歴史的國体もこの天の教理的理論解釈を加ふることによりて益々世界に公表するに足る金匱無缺の國体明徴となり、宗教と科学、即ち精神界と物質界とが合致するに及んで、始めて悪思想迷信が一徹的に排除せられ、更に道徳と経済とが一致せねばならぬのであるから人生は向上進歩の一路を辿ることが出來てこれからは益々人生に眞の福祉が得らるゝ試みである、故に私は私の

教論の普及

佛敎教論を以て人々を哲理に徹せしめ、先づ我が十全の大君を説き國体を明徴にして理想を我が國に實現することが内地外交を融和しやがて世界をも明朗化する所以であると信ずるが故に、この一即多説を國体明徴と名づけ、物心同体説と名づけ、皆共成佛の眞諦と名づけ、宗教の眞髓と名づけたる所

以であつて、前に掲げたる各項を以て本社趣旨綱領とする次第である。而して

教論の信仰

この趣旨綱領は佛敎顯密両教の十界五輪緣起説に基づいて教論を立て茲に及んだのであるが、就中聖無動尊秘密陀羅尼經並に密敎修行の感應に由るものである、抑も聖無動尊は密敎に於ける宇宙絶對の理体たる大日如來を本體とし、大慈大悲にして文武両道智に勇を象徴するものであるから、我等理想的信仰の對象であるが、実行の信仰の中心は我が天皇がそれである。

然らざれば吾人の信仰は甚だ感傷的にして理智を空しくし、家を捨て國を忘れ、遂には地上をも厭ふに至り、全く實生活を離れたる空虚にして利己的信仰となるからである、恭しく惟ふに我が

皇祖天照皇大神御歷代天皇は恰も天におはすやうに地に在らせ給ふ現人身即ち天地萬物の神におはします、我等皇國民は我が國体に對し奉り、解行一致の宗教者信奉者擁護者となりて、恭しく神佛に事へ神人格並に祖先の靈位

を慕り、誠心以て現人身を我が天皇に献身報國を誓ひ奉れば、天地人茲に融合して絶対力となり一切悪を除き、地上に光明世界を現出するに至ることは、復た諸經の所説も何ぞ之と異ならんやである。

この認識さへ成立すれば世界に於ける神佛の信仰者は悉く皆我が絶対不二なる天皇御威徳の信仰者であらねばならぬ、是れ實に「八紘一宇」の皇謨ある所以でなくて何であらう。

信念の實行

常に私は聖不動尊を信仰してゐる蓋しこの宇宙絶対者を認識することは、移して以て最も能く我が國体を認識するに足るが故である。

今や吾界は危機に臨み、内外非常時局に際して一大理想の天業を我が皇國によりて實現光被せしむるやう祈ると共に、私は宗教者として 天皇御威徳の下に一切衆生済度の任務を完ふせんとの微衷に外ならない。故に私は老軀を驅りこの趣旨綱領に基づいて速かに佛敎教論派を開放し、國体明徴國本擁護の道場をも建設して、大衆と共に我が國体の地上絶対を絶叫し、動もすれ

ば天上に眠らんとする既成宗教の迷妄をも打破して、天上の理想信仰を地上絶対の我が國体信仰に目醒めしめ、以て實行実動的のものとなし、世界の大勢に即し現実に即して、四海同胞一大家族主義を標榜する大日本精神を作興し、時局匡故人類福祉の大業行を念願して止まらぬ次第である。(大圓鏡智)

昭和十一年三月

國体 明徴 宗教の真髓普及社

主管 山田 修道

昭和十一年三月三十一日印刷
昭和十一年四月三日發行

東京市豊島区池袋三ノ一〇〇六

著述者
發行人

山田修道

發行所

國林
明敏
宗敎の眞髓普及社

印刷所

東京市豊島区新川一丁目六番地
大同蔭寫機商會

終

21
22

4